

# 衛研ニュース

No.143



表紙写真説明: 賈 立明さん(黒竜江省)と王 曉燕さん(ハルビン市)は環境科学研究センターで水質の農薬測定技術について一ヶ月間の研修を行っています。その一環として当衛生研究所を訪れ「液体クロマトグラフ質量分析計による分析の概要」について学びました。通訳の方を介し、熱心に機器の原理等について質問されておりました。

(理化学部 阿部恵子)

## も く じ

山形県感染症患者発生状況(2006年) .....	山形県感染症情報センター	保科 仁	(2)
薬になる植物(74)センキュウについて .....	理化学部	笠原 義正	(4)

編集発行 山形県衛生研究所

平成19年3月10日発行  
 〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号  
 Tel(023)627-1190 生活企画部  
 Fax(023)641-7486  
 E-mail:eiken@pref.yamagata.jp  
 URL:http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/

# 山形県感染症患者発生状況 (2006年)

山形県感染症発生動向調査事業に基づき、県内の届出指定医療機関(76定点)から、各週・各月に寄せられた患者発生情報のうち、2006年1月から12月までの主な流行疾患の患者発生状況について報告します。

## 1 定点把握感染症【週報】

### (1) 咽頭結膜熱 (図1)

2006年は平年をやや上回る程度で推移していましたが、12月下旬に大きな流行があり、2000年以降では患者報告数が最も多い年となりました。患者からはアデノウイルス3型が多数分離されています。全国的には5月上旬から流行が始まり7月中旬にピークを迎え、9月中旬まで続きましたが、最上地区でも全国のピークとほぼ同じ時期に集団の発生の存在を伺わせる大きなピークがありました。患者は4歳をピークとし、1歳から6歳に多くみられました。

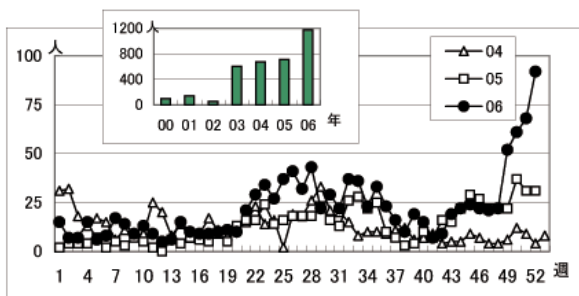


図1 咽頭結膜熱

### (2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (図2)

2006年は過去10年間で最も多い患者数を記録した2004年の次に多い年となりました。特に1月中旬から3月中旬までは毎週150人を超す患者数が報告され、定点当たりの報告数は、庄内地区と置賜地区が他の地区を大きく上回りました。3月中旬～4月上旬は置賜地区が多く、その後は村山地区が他の地区を上回って推移しました。患者は5歳をピークとし、3歳～7歳に多くみられました。

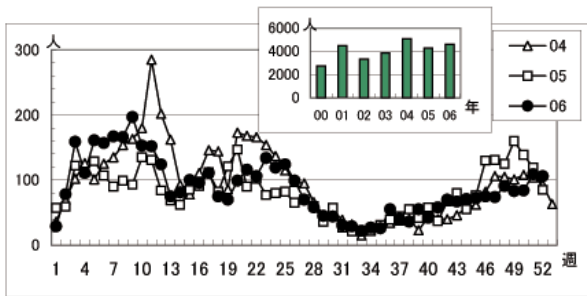


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### (3) 感染性胃腸炎 (図3)

2006年は10月上旬までは例年より少ない状況で推移しましたが、10月下旬以降に患者数が急増し、2005年を大きく上回りました。また、県内各地の高齢者施設や医療機関等では、集団発生が多発し、患者のほとんどの便からノロウイルス(G)の遺伝子が検出されました。全国的にも11月から年末にかけて記録的な流行がありました。定点当たりの報告数は、年間をとおして庄内地区からの報告が多く、11月上旬から約3週間は最上地区が他を上回り、その後年末にかけては、各地区ともほぼ同じような状況で推移しました。

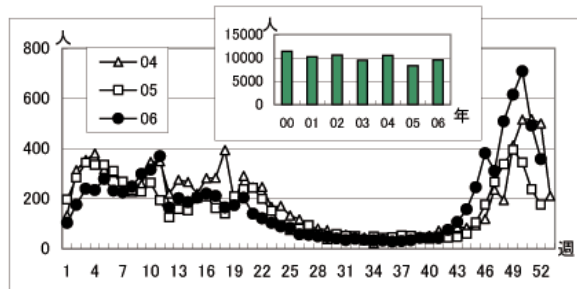


図3 感染性胃腸炎

### (4) 水痘 (図4)

2006年は2005年をやや上回り、平年並みの患者数となりました。本県の流行は、5月から6月と12月に2つのピークがみられ、全国とほぼ同じパターンで推移しました。定点当たりの報告数は、1月上旬から4月下旬まで最上地区からほぼ1週おきに多く報告されたのが特徴的でした。5月上旬から6月上旬までは最上地区が常に他を上回って推移しました。6月中旬から約1カ月間は置賜地区から多く報告され、その後は、各地区ともほぼ同じ状況で推移しました。患者は2歳をピークとし、1歳から4歳に多くみられました。

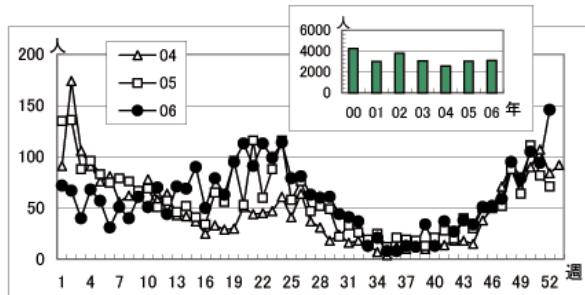


図4 水痘

### (5) 手足口病 (図5)

2006年の患者数は、2005年の約3.2倍、2004年の約5.6倍と大幅に増加しました。一般的に手足口病は、概ね3年周期で流行するといわれていますが、本県でも同じ周期で流行している様子が伺えました。患者の報告数は、8月中旬から増加し始めて10月中旬にピークを迎え、年末まで続きました。全国的には夏季にピークがある一峰性のパターンを示しており、本県の流行は、全国とは異なったパターンで推移したことになります。定点当たりの報告数は、8月中旬から11月中旬まで最上地区と置賜地区が他の地区を大幅に上回っており、11月下旬からは各地区ともほぼ同じ状況でした。患者は2歳をピークとし、1歳から5歳に多くみられました。患者からは主にエンテロウイルス71及びコクサッキーウイルスA16が分離されています。

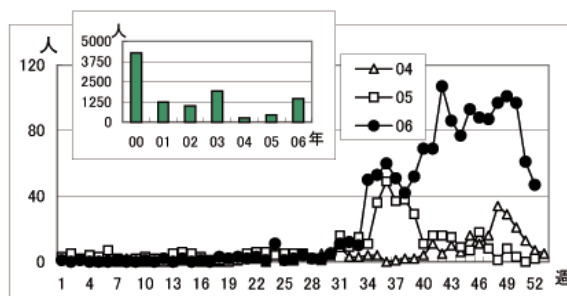


図5 手足口病

(6) インフルエンザ (図6)

2006年は2000年以降で最も患者数が多かった2005年の約1/4の患者数に止まり、2001年に次いで2番目に少ない年でした。定点当たりの報告数は、置賜地区が他地区を上回りました。患者は幼児から高齢者に至るまで全年齢層に及びましたが、4歳から6歳が中心で、10歳から14歳の小・中学生も他の年齢層に比べて多く報告されました。

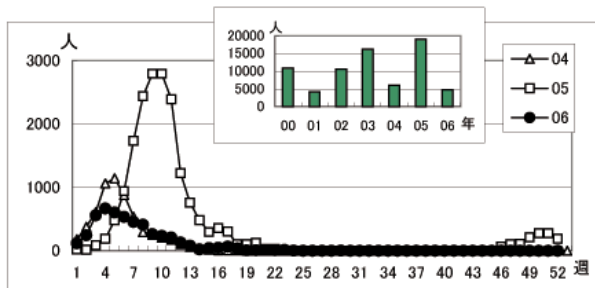


図6 インフルエンザ

(7) その他の疾患

伝染性紅斑は2005年の約2.6倍に増加し、2004年と同じ患者数が報告されました。定点当たりの報告数は、1月から9月上旬まで庄内地区からの報告が他の地区を大きく上回っていました。突発性発疹は2003年から漸次減少傾向にあります。定点当たりでは、年間をとおして最上地区と置賜地区から多く報告されました。ヘルパンギーナは2005年の約65%の報告数に止まり、2003年をピークに減少傾向にあります。定点当たりでは、置賜地区と村山地区からの報告が目立っていました。流行性耳下腺炎は2005年の約90%の報告でした。定点当たりでは、年間をとおして置賜地区から多く報告されました。流行性角結膜炎は2001年から減少傾向にあります。患者のほとんどは、最上地区から報告されています。マイコプラズマ肺炎は、2003年から年々減少しています。定点当たりでは、年間をとおして村山地区と庄内地区から多く報告されました。]

2 定点把握感染症【月報】(図7、図8)

性器クラミジア感染症は2003年をピークに減少していますが、依然として性感染症の中では最も患者数の多い疾患です。性器ヘルペスウイルス感染症は2005年を下回りましたが、2004年までと比べ増加しました。尖形コンジローマは

年々、増加傾向にあります。淋菌感染症は2005年を少し上回って報告されました。性感染症は15~29歳の若年層の患者が約60%を占めておりますので、積極的な啓発活動が必要です。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は2003年以降減少傾向にありますが、報告数は依然として多い状態が続いています。患者は65歳以上の高齢者が全体の約74%を占めていますので、特に病院や高齢者施設等に対する衛生管理の指導が重要です。

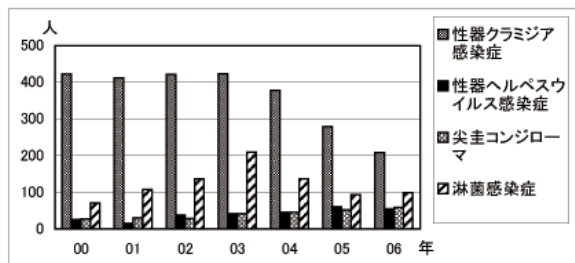


図7 性感染症 (定点把握感染症)

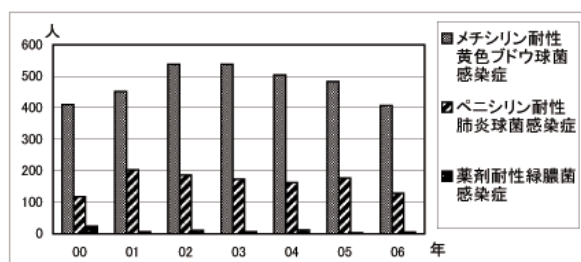


図8 基幹定点把握感染症

3 全数把握感染症【週報】

届出対象となっている58疾患のうち12疾患の患者報告がありました。腸管出血性大腸菌感染症の報告患者数は前年を下回りましたが、依然として他の疾患より多く報告され、6月~10月の患者数が全体の約86%を占めています。つづが虫病の患者も2000年以降では、最も多く報告されました。急性脳症の患者は1名に激減しました。後天性免疫不全症候群の患者が4名報告され、うち3名はAIDS患者として報告がありました。

(山形県感染症情報センター 保科 仁)

衛生研究所の論文・学会発表 (2006年9月~2006年3月)

発表論文

- 1) Matsuzaki Y., Katsushima N., Nagai Y., Shoji M., Itagaki T., Sakamoto M., Kitaoka S., Mizuta K., Nishimura H.: Clinical features of influenza C virus infection in children. J.Infect.Dis. 193(9):1229-35, 2006.
- 2) Murata T., Katsushima N., Mizuta K., Muraki Y., Hongo S. and Matsuzaki Y. Prolonged norovirus shedding in infants 6 months of age with gastroenteritis. Pediatr.Infect.Dis.J. 26:46-49,2007
- 3) Sasaki H., Akiyama H., Yoshida Y., Kondo K., Amakura Y., Kasahara Y., Maitani. T.: Sugihiratake Mushroom (Angel's Wing Mushroom) -Induced Cryptogenic Encephalopathy may Involve Vitamin D Analogues. Biol. Pharm. Bull.29, 2514-2518(2006).
- 4) 阿彦忠之: わが国のDOTSの成果と問題点、結核, 82(2), 119-123, 2007

学会発表

- 1) 高橋裕一, 青山正明, 須藤守夫, 安部悦子, 會田健, 川島茂人, 阪口雅弘, 太田伸男: 空中カモガヤ花粉抗原(Dac g)の出現時期と飛散動態. 日本花粉学会第47回大会, 2006/9/13-15, 和歌山市

- 2) 安部悦子, 高橋裕一, 青山正明, 沼澤聡明, 會田健: ダーラム捕集器により得られた大気試料中のCry j 1値(ラテックス凝集反応・ELISA)とスギ花粉数との関係. 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2006/11/2-3, 東京都
- 3) 高橋裕一, 青山正明: スギ花粉飛散シーズンとその前後における飲用水(水道水, 井戸水)中のCry j 1含量. 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2006/11/2-3, 東京都
- 4) 笠原義正, 山田則子, 小野寺準一: 有用地域作物の検索 - ヒメウコギの有効利用 -, 日本生薬学会第53回年会, 2006/9/29-30, 埼玉.
- 5) 青木敏也, 金子紀子, 大谷勝実, 阿彦忠之: 結核患者接触者検診における全血インターフェロン 応答測定法の実施状況. 山形県公衆衛生学会 2007/3/7 山形
- 6) 須藤亜寿佳, 青木洋子, 保科仁, 水田克巳, 大谷勝実: 山形県民の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況, 山形県公衆衛生学会 2007/3/7 山形
- 7) 伊藤健, 本間弘樹, 笠原義正: 山形県におけるトリカブト中毒とその分析法, 山形県公衆衛生学会 2007/3/7 山形

## 薬になる植物(74) センキュウについて

セリ科の植物には、風味や風情を引き立て、季節感を演出する素敵な食材が多くあります。香りの成分を含んでいるのでハーブやスパイスとしてもよく知られています。例えばセロリ、トウキ、センキュウ、ミツバにはフタロイド化合物が含まれています。これは皆さんよくご存知のセロリの独特な香りです。ウイキョウやアニス、イノンドにはアネオールという香気成分があり、甘い香りのするクマリン化合物を含むものもあります。また、ハーブは、薬用としての機能も兼ね備えています。ハーブで薬草といえるものの薬効を挙げてみます。イノンドは駆風、トウキは通経、鎮静、ヨロイグサは通経や感冒に、シシウドは感冒、ミシマサイコは解熱、肝障害に、コエンドロ(コリアンダー)は健胃、駆風に、ウイキョウは芳香性健胃、ハマボウフウは感冒、アニスは芳香、駆風、イブキボウフウは発汗、解熱、ヤブジラミは消炎、センキュウは鎮静、鎮痛に用いられます。また、人体に対する作用が強いこともあり、毒になる植物もいくつかあります。ドクゼリはセリと同じように水辺に生え、若い葉の時期にはよく間違われます。これによる食中毒も何件か報告されており、注意が必要です。毒成分はチクトキシンといわれ、誤食すると痙攣が起き、呼吸困難をきたします。その他にドクニンジンもあり、少量では鎮痛薬とされ、带状疱疹などに用いますが、コニインという有毒アルカロイドを含み、大変危険です。ギリシャの哲学者ソクラテスはドクニンジンの毒で殺害されたと言われています。このようにセリ科には毒や薬として重要な、または注意すべき植物が存在します。今回はこれらのうちセンキュウについて述べたいと思います。センキュウは中国原産の多年草で、17世紀頃に薬草として日本に渡来し、各地に広がったとされています。宮崎安貞の『農業全書』には、長崎から種子が持ち込まれ栽培されたことが記録されています。その本には栽培法や生薬としての管理法が記載されており、採取は10~11月頃がよく、センキュウの根を掘り起こし、天日に干してから釜で湯通しし、後に風通しの良い場所で陰干しをするなど詳しく調製法が記してあります。

**概要:** センキュウ(*Cnidium officinale*)はセリ科(Umbelliferae)の植物で漢方では川芎(せんきゅう)と称し、漢方方剤に配合されます。中国の川芎(*Ligusticum*属)と日本の川芎(*Cnidium*属)では基源植

物が異なるとされていますが、薬草としては同じように用いるという興味深い植物です。ここでは主に日本産川芎について述べたいと思います。

川芎は補血、強壯、鎮痛、鎮静作用があり、婦人病薬、冷え症薬、皮膚疾患薬、消炎薬とみなされる処方に配合されています。漢方薬としては、四物湯、十全大補湯、川芎茶調散、柴胡清肝湯、十味敗毒湯、疎経活血湯、治頭痛一方、当帰芍薬散、防風通聖散、抑肝散など厚生労働省の漢方の手引き210処方中35処方に使用されています。

**成分:** 精油成分として香気のあるリグスチライド、クニディライド、ブチルフタライド、ブチリデンフタライド、センキュノサイドA、などがあり、フェルラ酸、カフェ酸、バニリン、ファルカリノール、テトラメチルピラジン、アデノシンなども含まれています。

**薬理作用:** 実験動物の自発運動抑制や麻酔薬の睡眠時間を延長するなど川芎エキスには鎮静作用が認められており、痛みを止める鎮痛作用もあります。テトラメチルピラジンはラットの記憶学習障害を改善し、実験的に肝障害を誘発させたラットに対して予防効果が認められ、血を固まりにくくする血小板凝集抑制作用が報告されています。また、フェリック酸とテトラメチルピラジンは、炎症を抑制し、鎮痛作用も認められました。さらに腹水癌を抑制し、免疫賦活作用もあり、浴用剤として用いると皮膚温度を上昇させ、

保温増強効果のあることも報告されています。

川芎は民間薬のように単独の薬草として用いることはなく、必ず何らかの薬草と配合されます。このことに対する注意点として中国の古い医薬の書『本草綱目』には単独で用いることの弊害が記してありました。それによると単独で飲み続けて死亡した例や、長く服用して突然死亡した例があり、「他の薬を佐使とするか、久服せず、病に的中した時にやめれば禍はなかったはず」としています。川芎には、羌活、白芷、柴胡、蒼朮、呉茱萸、細辛などを適宜加えると薬方が良い方向に向かいます。薬草の本にはセンキュウの良い効果だけが出ていますが、何百年も前の本草書を詳しく読むと、やってはいけない注意が記載されています。健康のためには、薬効の一部だけでなく、全容を知る必要があります。一般的でない薬草を使用する際は専門家に聞くことをお勧めします。

(理化学部 笠原義正)



センキュウ

「牧野新日本植物図鑑」より